

平成 26 年度

## 病害虫発生予報第 5 号

平成 26 年 8 月 28 日

### 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/boiyosyo/>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 今月のトピックス(チャ輪斑病について)	12
6. 気象のデータ	13
7. おしらせ	15

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 作物

イネ(普通期)では、斑点米カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。トビイロウンカの発生量は**平年並**、ツマグロヨコバイの発生量は**やや少**と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。薬剤散布は莢伸長期および子実肥大中期に行ってください。ハスモンヨトウの発生量は**やや少**と予想されます。

### 2) 果樹

カンキツでは、黒点病、かいよう病(温州)、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。かいよう病(中晩柑)の発生量は**やや少**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。カンキツ、カキ等での被害発生に注意し、圃場への飛来が認められたら直ちに防除してください。

### 3) 茶

チャでは、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**やや多**と予想されます。新葉の開葉初期に防除しましょう。クワシロカイガラムシの発生時期は**平年並**、発生量は**やや多**と予想されます。圃場で幼虫の孵化を確認し、枝幹に薬液が十分かかるように防除しましょう。炭疽病の発生量は**平年並**、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**、チャノホソガの発生時期は**平年並**、発生量は**少**と考えます。

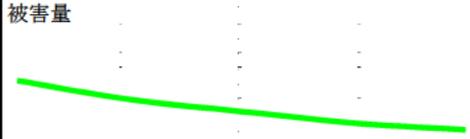
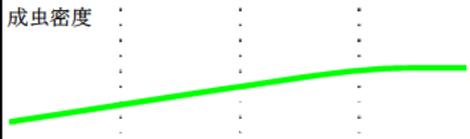
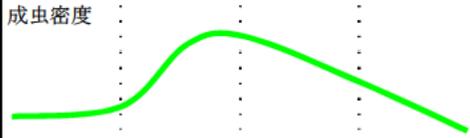
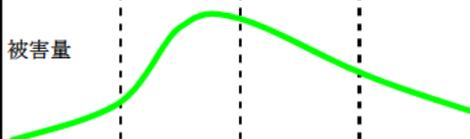
### 4) 野菜

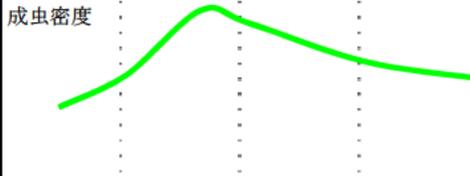
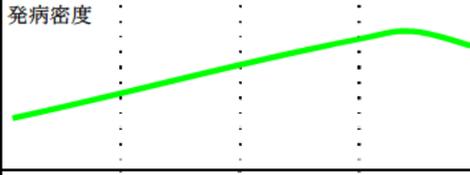
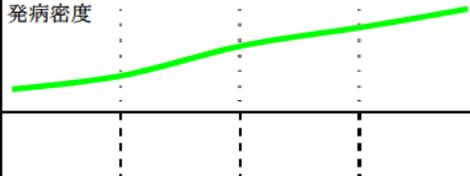
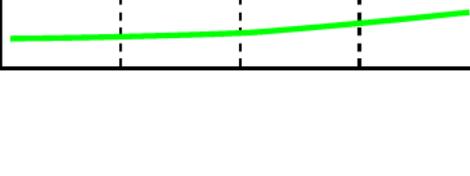
イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。薬剤による予防防除と、発病株およびその周辺株の除去を徹底してください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
						下旬	中旬	下旬	中旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	多	大	高	被害量				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 周辺圃場で収穫作業がある時は、侵入に注意してください。</li> <li>2) 薬剤散布は穂揃い期に実施してください。</li> <li>3) 防除後も水田への侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7～10日後に2回目の防除をしてください。</li> <li>4) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。</li> </ol>
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	中	低	成虫密度				1) 本年は発生量がやや少ないので、実害は少ないと思われます。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低	成虫密度				1) 多飛来が確認されていないので、防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや少	中	普通	被害量				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一部の圃場では、既に発生が確認されています。圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。</li> <li>2) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比 程度		要防除 圃場率 平年比	発生活消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 病害虫防除技術情報第11号(8月26日発表)。</li> <li>2) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。</li> <li>3) 薬剤散布は、9月中旬(開花20日後・莢伸長期)と10月上旬(開花40日後・子実肥大中期)の2回散布が効果的です。</li> <li>4) 1回散布の場合は、9月下旬頃(開花30日後・子実肥大初期)に散布してください。</li> <li>5) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。</li> <li>6) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。</li> </ul>
カンキツ	黒点病	—	平年並	中	普通	発病密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。</li> <li>2) 9月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。</li> </ul>
	かいよう病	—	温州 平年並	温州 小	温州 低	発病密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。</li> <li>2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。</li> <li>3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。</li> </ul>
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度 				<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。</li> <li>2) 1葉当たりの雌成虫寄生数が0.5~1.0頭程度を目安に防除してください。</li> <li>3) 抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。</li> </ul>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	普通	成虫密度		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。</li> <li>2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。</li> </ul>		
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通	チャバネアオカメムシ ツヤアオカメムシ		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。</li> <li>2) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等では、発生状況に十分に注意してください。</li> <li>3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。</li> </ul>		
チャ	炭疽病	—	平年並	小	普通	発病		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 防除適期は新芽1葉期です。三番茶芽を摘採しない圃場では、多発に注意しましょう。</li> <li>2) 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨後は治療剤で防除しましょう。</li> <li>3) 同一系統の薬剤の連用は、耐性菌が出現しやすいので避けましょう。</li> </ul>		
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	ダニ密度		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 秋口に気温が下がると多くなります。</li> <li>2) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息していますので、丁寧に薬剤散布してください。</li> <li>3) 同一系統の薬剤の連用は、抵抗性が発達しやすいので避けましょう。</li> </ul>		
	チャノホンガ(第4世代幼虫)	平年並	少	小	低	成虫誘殺数		<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 新芽開葉初期の孵化直後幼虫(潜葉期、絵描き状態)を対象に防除しましょう。</li> <li>2) 病害虫防除所のホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。</li> </ul>		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			発生量	程度		8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや多	中	普通					1) 晴天が続くと発生が多くなります。 2) 新芽の伸張とともに増殖しますので、多発を確認したら萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。 3) 一斉防除が効果的です。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通					1) 晴天が続くと発生が多くなります。 2) 萌芽期～新芽生育初期に防除しましょう。 3) 一斉防除が効果的です。
	クワシロカイガラムシ	平年並	やや多	中	普通					1) 有効積算温度による発生活消長予測式では、第3世代幼虫孵化最盛日は平坦地では9月第3半旬、中山間地では9月第3～4半旬と予想されます。 2) 防除適期は孵化最盛日から2～4日後頃です。 3) 圃場で幼虫の孵化を確認してから防除しましょう。 4) 樹冠内の枝幹に十分かかるように薬剤散布しましょう。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第12号(8月28日発表)。 2) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 3) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 4) 耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 5) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや少	小	普通					1) 幼虫の発生は8～10月に多くなります。 2) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 3) 同一系統薬剤を連用すると薬剤抵抗性が発達しやすいため、異なる系統の薬剤をローテーション散布してください。

### 3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(8月第1半旬~第4半旬・松阪市)では、クモヘリカメムシ誘殺数は水田位置で51頭(平年5.6頭)と多、畑位置で310頭(7年平均92.4頭)と多の傾向、ミナミアオカメムシ誘殺数は水田位置で7頭(4年平均8.3頭)と平年並の傾向、畑位置で68頭(4年平均66.0頭)と平年並の傾向 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率43.4%(平年35.3%)と多、すくい取り虫数1.8頭(平年1.1頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~多(概して多) (+)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(7月第3半旬~8月第2半旬・松阪市)では、誘殺数は水田位置で2頭(平年5.2頭)とやや少、畑位置で3128頭(7年平均2612.0頭)と多の傾向 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率29.7%(平年33.9%)と少、払い落とし成虫数1.8頭(平年8.3頭)と少、すくい取り虫数18.4頭(平年24.5頭)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(5月第1半旬~8月第5半旬)では、松阪市で0頭(平年1.1頭)と平年並に少 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率0%(平年0.4%)と平年並に少、払い落とし成虫数0頭(平年0.2頭)と平年並に少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ(7月第5半旬~8月第4半旬)では、誘殺数は菰野町で455頭(8年平均934.3頭)と少の傾向、津市で412頭(8年平均523.0頭)とやや少の傾向、松阪市嬉野川北町で185頭(平年375.7頭)と少、松阪市藤之木町で977頭(8年平均891.1頭)とやや多の傾向 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、葉食害度0.0(8年平均0.1)と平年並に少、1a当り白変か所数0.1か所(平年0.8か所)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無~平年並(概して平年並に少) (±)</p> <p>考察: フェロモントラップ、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(8月第1半旬～第4半旬・松阪市)では、誘殺数はミナミアオカメムシ水田位置7頭(4年平均8.3頭)と平年並の傾向、畑位置68頭(4年平均66.0頭)と平年並の傾向、イチモンジカメムシ30頭(平年4.1頭)と多、ホソヘリカメムシ112頭(7年平均20.3頭)と多の傾向(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、25株当り寄生虫数0頭(5年平均0.01頭)と平年並に少(±)</p> <p>3) 水稻巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率3.1%(4年平均1.2%)。払い落とし調査含む)と多の傾向、すくい取り虫数0.07頭(4年平均0.02頭)と多の傾向(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は微～多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 予察灯および水稻巡回調査結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月中旬、無防除)では、果実発病度61.8(平年53.3)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、果実発病度2.4(平年6.1)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 台風11号の影響により、8月9～10日に大雨に遭遇(+)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率0%(平均10.4%)と少、発病果率0%(平年35.0%)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、温州みかんでは春葉発病度0(平年0.2)と平年並、果実発病度0(平年0.5)と平年並(±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)のうち、中晩柑では春葉発病度1.2(平年3.2)と少、果実発病度0(平年4.8)と少(-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 温州みかんでは、現状の発生量は平年並に少ないと考えられ、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑では、現状の発生量は少と考えられますが、気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 台風11号の影響により、8月9～10日に大雨に遭遇(-)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区5.6頭(平年24.0頭)と少、慣行防除区0頭(平年92.5頭)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発生圃場率46.2%(平年37.7%)と多、春葉における寄生葉率8.9%(平年6.8%)とやや多、寄生頭数0.51頭/葉(平年0.29頭/葉)とやや多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃黄色粘着トラップ(8月中旬)では、誘殺数 17.8 頭(平年 10.9 頭)と多 (+)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬、無防除)では、100 果当り寄生虫数 3.2 頭(平年 17.7 頭)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害果率 0.5%(平年 2.2%)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:8月11日～20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 1143 頭(平年 571.5 頭)と多、ツヤアオカメムシ 51 頭(平年 35.7 頭)とやや多 (+)</p> <p>2) 予察灯(松阪市:7月21日～8月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 2305 頭(平年 557.8 頭)と多、ツヤアオカメムシ 89 頭(平年 82.7 頭)と平年並、クサギカメムシ 545 頭(平年 154.5 頭)と多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(7月17日～8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で 564 頭(平年 1053.7 頭)とやや少、中間地(津市白山町二本木)で 1714 頭(平年 2131.7 頭)と平年並、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 218 頭(平年 408.3 頭)とやや少 (—)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、ナシ(無袋栽培)での被害果率 2.0%(9年平均 1.3%)とやや多の傾向、カキでの被害果率 0%(平年 0.6%)とやや少、カンキツ、カキ圃場での成虫飛来を確認 (+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 一般圃場での発生量は平年並と考えられますが、予察灯の飛来数が多いことから、予想発生量はやや多と考えます。</p>
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃では、二番茶期の病葉数 0 枚/m<sup>2</sup>(9年平均 0.6 枚/m<sup>2</sup>)と少の傾向 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、発病葉数 3.5 枚/m<sup>2</sup>(平年 0.7 枚/m<sup>2</sup>)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、寄生葉率 1.0%(平年 8.4%)と少、寄生頭数 0.01 頭/葉(平年 0.45 頭/葉)と少 (—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、寄生葉率 0.3%(平年 1.6%)と少、寄生頭数 0.007 頭/葉(平年 0.03 頭/葉)と少 (—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (—)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	平年並	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃では、直近のフェロモントラップ誘殺ピークは7月第3半旬(平年7月第3半旬)と平年並 (発生時期±)</li> <li>3) 県予察圃フェロモントラップ(7月第4半旬～8月第4半旬)では、誘殺数 673.3 頭(平年 1991.8 頭)と少 (－)</li> <li>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、巻葉数 0 枚/m<sup>2</sup>(平年 2.0 枚/m<sup>2</sup>)と少 (－)</li> <li>5) 一般圃場では、発生量は少 (－)</li> </ol> <p>考察： フェロモントラップの誘殺状況から、予想発生時期は平年並と考えます。現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。</p>
	チャノミドリヒメコバ イ	－	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第4半旬～8月第4半旬)では、捕殺数 8.3 頭(平年 18.2 頭)と少 (－)</li> <li>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、叩き落とし虫数 2.3 頭(平年 1.0 頭)と多 (+)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</li> </ol> <p>考察： 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウ マ	－	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</li> <li>2) 県予察圃吸引粘着トラップ(7月第4半旬～8月第4半旬)では、捕殺数 2328.5 頭(平年 5796.4 頭)と少 (－)</li> <li>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、叩き落とし虫数 5.7 頭(平年 9.3 頭)と少 (－)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</li> </ol> <p>考察： 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	平年並	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、天気は数日の周期で変わる予想 (±)</li> <li>2) 有効積算温度による発生消長予測式では、第3世代幼虫孵化最盛予測日は9月第3半旬(平年9月第3半旬)と平年並 (発生時期±)</li> <li>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、雄繭寄生株率 12.2%(9年平均 5.3%)と多の傾向、雌成虫寄生株率 19.9%(平年 7.5%)と多 (+)</li> <li>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</li> </ol> <p>考察： 発生消長予測式から、予想発生時期は平年並と考えます。現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 3か月予報(8月25日発表)によると、9月の降水量は平年並か多い予想 (+)</p> <p>2) 8月9～10日に台風11号が通過し、その後も降雨が継続 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週、苗床)では、発病株率0.2%(平年0.9%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられますが、気象要因による今後の増加を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少ない予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市:7月第6半旬～8月第5半旬)では、誘殺数は9頭(平年74.4頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第2週)では、被害葉率0.2%(平年1.4%)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少と考えられますが、今後の増加を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

**発生時期(平年比)：** 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

**発生量(平年比)：** 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

			平年値			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並	やや多	多	

**発生量(程度)：** 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

**要防除圃場率(平年比)：** 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

**発生消長の一例：** 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

**防除の注意事項：** 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス「チャの輪斑病について」

### 1. 生態と被害

輪斑病は炭疽病とともに茶の重要な病害の一つです。糸状菌の仲間であり、分生子が摘採、整せん枝、すそ刈などにより生じた茶葉の傷口から侵入することにより感染し、発病します(図1)。



図1 輪斑病の分生子(左)と新梢枯死症(右)

病斑の特徴は炭疽病が単調な茶褐色の病斑であるのに対して輪斑病では茶褐色の同心円状の病斑が発生します。

潜伏期間は5~7日と短く、気温が高くなる5月中旬頃から感染が始まり、気温が高いほど発病程度は著しくなります。二茶摘採後に降雨と高温が続くとから秋にかけて発生が多くなります。また、この時期の秋番茶の新梢に感染すると「新梢枯死症」の発生源になることもあります(図2)。

「やぶきた」、「さやまみどり」、「おくみどり」、「さえみどり」は、発病しやすい品種とされています。



図2 輪斑病葉(左:茶業研究室原図)と新梢枯死症の初期症状(右)

### 2. 防除

耕種的防除として夏期高温期の摘採、整せん枝を避けて、茎葉に傷口をつくらないようにしましょう。

農薬による防除は、摘採または整せん枝直後(当日)に防除することが重要です。周辺茶園の収穫を待って防除しましょう。

他県では QoI(ストロビルリン系)剤耐性菌の発生が報告されていますので、年1回使用に止めましょう。

新梢枯死症対策として、輪斑病の防除(二番茶の整せん枝直後の薬剤防除)と三番茶芽の二葉開葉期の薬剤散布を組み合わせると効果的です。

農薬はラベルを確認して正しく使用してください。

## 6. 気象のデータ

### 東海地方1か月予報(平成26年8月21日 名古屋地方気象台発表)

前線や湿った気流の影響で平年に比べ晴れの日が少ない時期があり、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込みです。気温と降水量は、ほぼ平年並の見込みです。

1週目 8月23日～29日	高気圧に覆われて晴れるところもありますが、湿った気流や気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨の降るところがあるでしょう。	津の降水日数・晴れ日数の平年値 1.9日・4.5日
2週目 8月30日～9月5日	低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わるでしょう。湿った気流の影響を受けやすく、平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。	同 2.0日・4.4日
3～4週目 9月6日～19日	平年と同様に低気圧と高気圧が交互に通り天気は数日の周期で変わるでしょう。	同 4.9日・7.5日

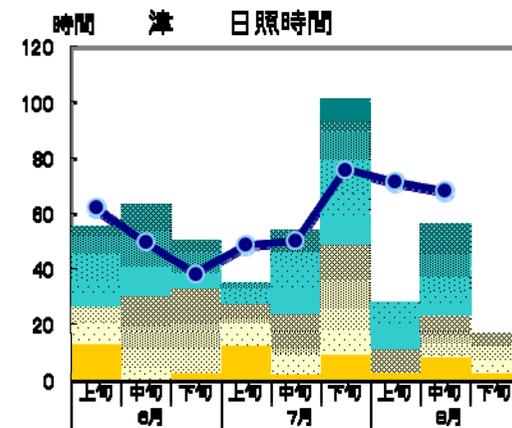
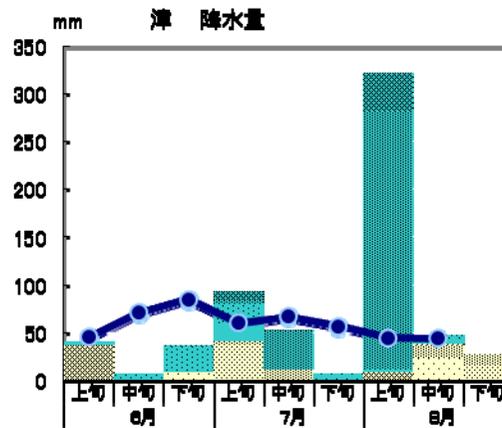
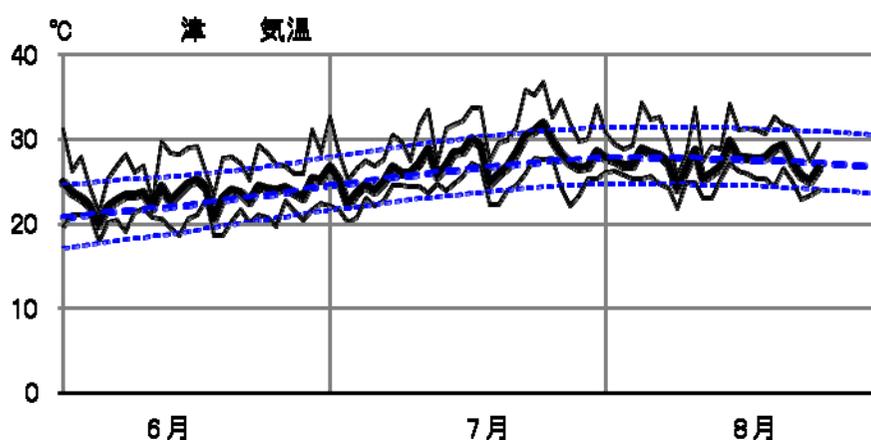
### 東海地方週間天気予報(平成26年8月27日10時30分 名古屋地方気象台発表)

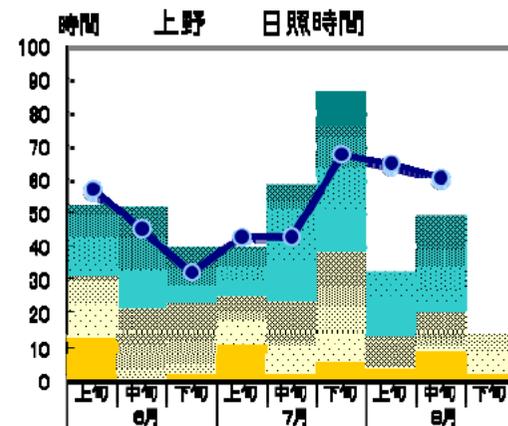
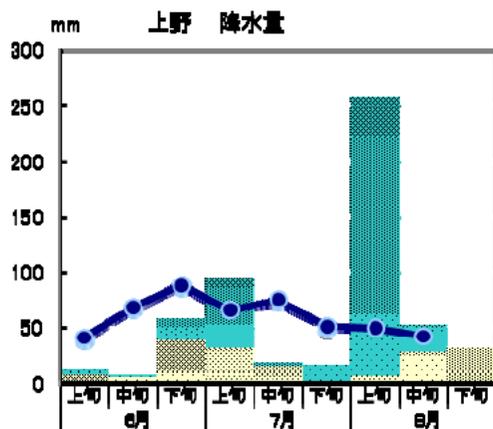
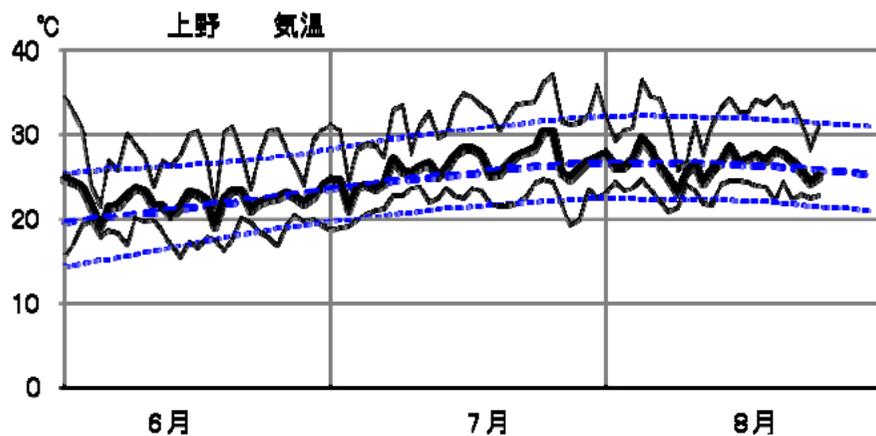
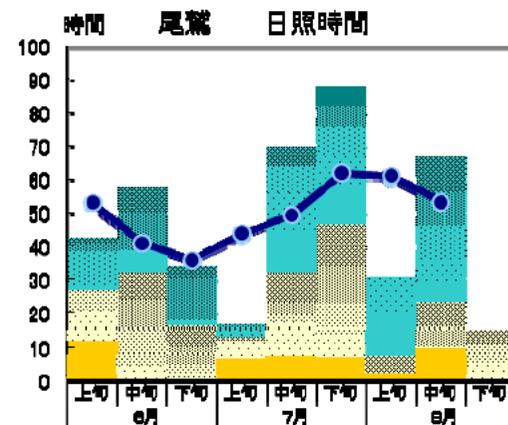
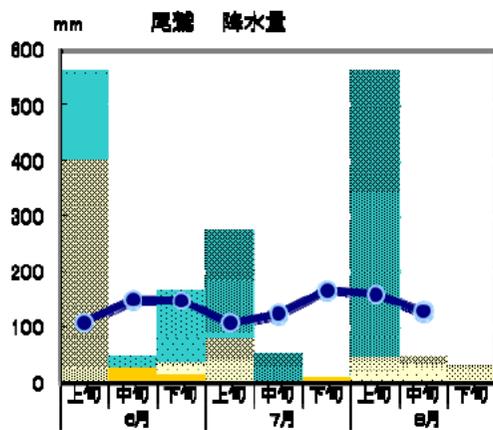
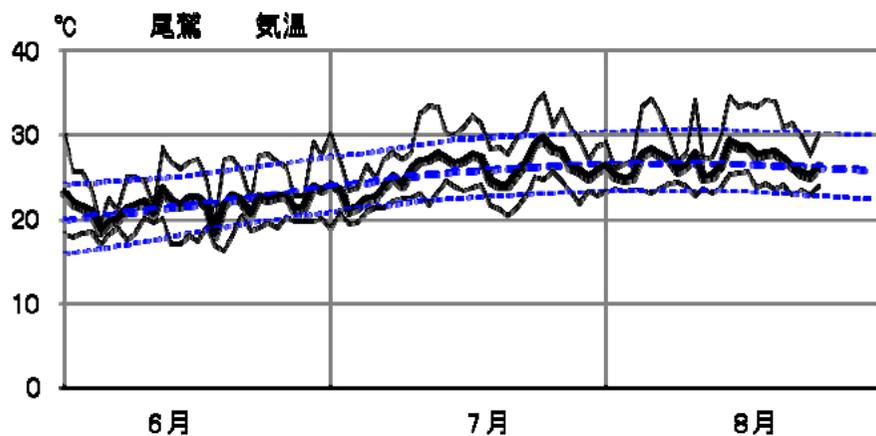
予報期間 8月28日～9月3日

向こう一週間は、湿った気流や気圧の谷の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨の降る日があるでしょう。

最高気温と最低気温はともに、平年並か平年より低い見込みです。  
降水量は平年並でしょう。

気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8月25日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- ..... 平年最高
- · - · 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬年値

## 7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

### 1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

### 2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月24日(木)(済み) 第2回 5月29日(木)(済み)
- 第3回 6月26日(木)(済み) 第4回 7月24日(木)(済み)
- 第5回 8月28日(木)(今回) 第6回 10月23日(木)
- 第7回 3月19日(木)

### 3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

### 4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotobiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.lg.jp/Bojyosyo/files/h26yohotobiki_.pdf)

### 5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

### 7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/work/ipm/main.htm>